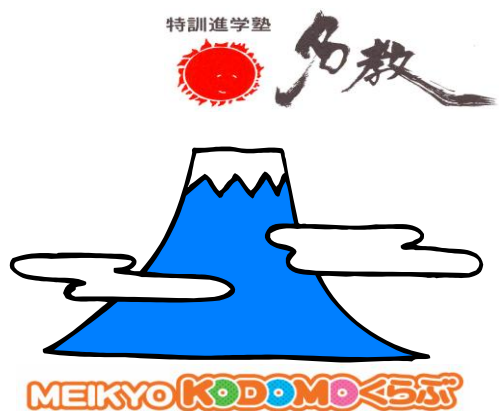


ほっふ
すてっふ
じゃんぷ



2012年版 第5号

塾長コラム

あんぱんち

第二十八回

2学期が始まりました。皆様のご家庭では、どんな夏休みを過ごされましたか。子どもたちの様々な思い出話を、楽しく聞いています。

さて、大変残念なことですが、この夏は、全国各地でいじめをめぐる問題が、明らかに増えました。夏休みが明けた始業式で、子どもたちにこの問題について、校長先生や担任の先生が、お話をされた学校も多いようです。今回は、この問題について、聞いていただこうと思います。

大津市のいじめ問題は、警察が、学校を強制捜査する事態となりました。事態を明らかにしない学校や教育委員会の体質が批判されました。いじめの問題は、子どもたちだけの問題ではなく、彼らを取りまく私たち大人も、みんなが真剣に考えなければいけないのだろうと思います。ただ、いじめの問題に関しては、本当にいろいろなことを考えなければなりません。いじめが起きないようにすることが理想ですが、そのためには何をしなければならぬのでしょうか。一方で、長年にわたって、学校でのいじめはなくなりません。起きてしまったときに、どのように対処すればよいのでしょうか。学校や教育委員会が、どうするべきなのでしょう。そして、私たち、子を持つ親は、何をすべきでしょうか。

ところで、先日、この問題に関する報道番組を見ていました。その中で、特に気になった話題は、最近のいじ

めは、ネット利用の拡大で深刻化することです。

私が子どもの時にはなかった点です。しかし、今では、年齢による差異はありますが、子どもたちの多くが、パソコンや携帯電話で、メールのやり取りをします。かつては、学校の授業後の時間帯、とりわけ夜に、友だちと連絡をとろうとすれば、家庭の固定電話に電話をかけるのが主な手段でした。現在では、場合によっては深夜でも、子どもたち同士は気軽に連絡を取り合えます。学校の先生や親が知らないところで、連絡が取れるのです。いじめが表面化するタイミングが遅くなり、深刻化しやすくなっている原因の一つと感じます。だから子どものネットや携帯使用に規制をかけようということではなく、本来の正しい使い方について、子どもたちと一緒に考える必要があると思っています。

また、教育評論家の尾木ママこと尾木直樹氏はご自身のブログで、いじめ加害者出席停止方針について、「本当にバカバカしい……すでに失敗済み。」と語り、その事実を一切報道せず、英断扱いするテレビについて、「恥ずかし過ぎ、怒りを感じる」とおっしゃっています。さらに、「いじめに苦しむ子どもをどうやって救うのか、テレビができることを本気になって考えてほしいと訴えています。全く同感です。大津の問題に端を発し、子どもの自殺が連鎖して起きています。自殺報道から、自殺が連鎖することはよく知られたことです。表現が難しいのですが、自殺の報道を頻繁に見ることで、自殺が身近に感じられてしまう、自殺へのハードルが下がってしまう、これが自殺の連鎖を招く原因の一つという指摘もあります。いじめ問題、自殺の問題について、報道のあり方を見直してほしいなと願います。

最近、友人関係に不安感を抱いている子どもが多いような気がします。「表面的なつき合いの友人はたくさんい

るけど、本当の友人が見つけれない」などという声も耳にします。学校は、子どもたちにとって、長い時間を過ごす場です。子どもたちが、もっと良質な人間関係、友人関係を築いていける場であってほしいですね。私のいる塾にも同様のことが言えます。そういう場の雰囲気を整えられるように、私も考えようと思っています。そうすれば、いじめを誘発することも少なくなるでしょう。

塾長 西川 陽祐

今月の学問のすすめ

『声に出して読みたい日本語』（草思社）などで有名な明治大学教授の齋藤孝先生が、昨年、子どもたちに向けて、『子ども「学問のすすめ」』（筑摩書房）を出版されました。『学問のすすめ』は、一万円札に顔がのっている福沢諭吉という人が書いたとても有名な本ですよ。その『学問のすすめ』を、子どもたちにも分かりやすく齋藤先生が解説してくれたのが、『子ども「学問のすすめ」』です。『学問のすすめ』は、これからおとなになっていく皆さんに、ぜひ一度は読んでほしいとずっと思ってきました。でも、もとの本は、昔の言葉で書かれていて、書いてある内容も、大変難しいので、ちよつと読みづらいかなと思っていました。それを、齋藤先生がとても分かりやすく書き直し、解説してくれているので、ぜひ、皆さんには、これを読んでもらいたいと思います。そこで、前号まで読んできた『論語』に続く、名著シリーズ第2弾として、今号からは、『学問のすすめ』をみんなで読もうと思ひます。

●福沢諭吉とはどんな人なの？
名教生の皆さんは、もちろん知っていますよね？そう、名教のれんらくちょうにのっている一万円札の人ですね。諭吉先生は江戸時代のおわりから明治にかけて活躍した人です。ヨーロッパやアメリカに何度もわたり、西洋の文明を勉強してきました。そして、日本が世界の国々と対等につきあうためには、日本人のものの考え方や姿勢をかえなければいけないと考えるようになります。諭

吉先生の頭の中にいつもあったのは、「独立」という二文字です。日本が自分の足で立つて独立し、対等な立場で外国とどんつきあっているって、他の国の独立までたすけられるようになれば、日本はきつとすばらしい国になるよ、というのが諭吉先生のいたかったことです。

●『学問のすすめ』を読むとどうなるの？

皆さんがこの『学問のすすめ』をよみ、自分やこの国はどうなったらいいのか考えておくと、背骨がすつととおったおとなになります。でも、考え方の背骨がないとふにやふにやしていて、ながされてしまいます。「自分は何をしたらいいんだっけ？」とありあえずお金はかせいだけど、なんか不安だ」というようになりかねません。だから、いまのうちに「自分は何かのためにこうしているのか」、背骨となる考え方を身につけておくのがいいのです。そうすれば、何が一番たいせつか順番をつけたり、よいことわるいことをちゃんとわかるおとなになれます。諭吉先生の本はそのためのしっかりした道すじをしめしてくれています。

今号よりこのコーナーでは、皆さんが『学問のすすめ』を読んでもらうことを目的とし、以下の図書を用い、一部編集して掲載していきます。連載を読んで興味のある人は、書店などで、ぜひこの本を手にとって見てみましょう。自分の本棚に一冊置いておくことをおすすめします！

『子ども「学問のすすめ」』（齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行）

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 35

全校集会のときには、おしゃべりをしてはいけません。まわりを見まわしてほかのクラスの友だちの気をひくのも禁止する。きちんとしたクラスのイメージを守ってほしい。

ルール 36

かかってきた電話にはきちんとした応対をしよう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

～子どものためのルールブック～

（ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社）より